夕刊 磐城新聞
十月三十日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢(郵税拾五錢)
廣告料金 普通欄金六拾錢 雜報欄金九拾錢 (五號十二字詰一行一回)(場所指定二割増)
編輯印刷兼發行人 柏木哲 福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
登録交信略(タイライワキ) 平局私書函第十二號 電話五六四番
(日曜祭日翌日休刊)

噫、伊達森里氏

旅行中の急逝を歎く

赤井嶽男

伊達さんが亡くなつた――と云ふ電話を受けた自分は、斯うした場合のお定り文句ではあるが、實際吾れと吾が耳を疑はずには居れなかつた。別に思つてると云ふ事も聞かず、あの在る大きくないにせよ、がつしりとした体軀の所有者で而も何とはなしにブロンズの胸像と云つた感じのする赤外線(?)に灼けた様な顏色をしたあの人が今や忽焉として一握の死灰に變つたとは、四年來彼氏の日常を知る自分には、どうしても事實とは受取れなかつたからである

0

『代議士は東京?Hさんは?』

街の反對側を歩いて來た場合でも、態々視力の覺束無い自分の方へ近寄つて來て莞やかに話し掛けて呉れる彼氏であつた

用件の有る無しに拘らず周圍の長上の事に就て訊かれるのは自分として決して悪い氣はしなかつた、その都度云ひ知れぬ懐しさを覺へさせられた0

つい先達、福島民報の『街の探訪早廻り競爭』の自動車を迎へた時であつた

町會議事堂で隣り合せて腰掛けた兩人は椅子をにじり寄せて、誰れ彼れと町の俳人などに就て色々語り合つた末彼氏は

『K君の之に良い臘梅なのが無いかなあ!』

と云つて如何にも他見を憚る氣に密つと小指を見せた

『自分も心掛けてゐるんだが、第一趣味の合致と云ふ難かしい條件があるんでね!お互ひね』

自分はそう答へた、そして若くして配偶を喪つた行員の爲にそうした心遣りを!て居る彼氏の人間味と云ふものを此上無く嬉しく思はれたのであつた。之が彼氏と最後の會見であつた

0

謹嚴重厚、而して春の如きその温情は俳人森里の作句の上にも在所に反映した即ちあはよくば一擧に高踏を獲やうとする様な浮雲い投機的な考へ――斯の道の人に有り勝ちな一種のアンビション――が無かつた、石橋を叩いて渡る用心深さから奇警燠發たる作句は未だ必ずしも多かつたとは云へぬかも知れぬが反面に他の嘲笑を買ふ様な衒氣に殃された脱線句と云ふ様なものが絶無であつた

0

早春や芽萠の獨活の香の高き　平町　森里

凍土に葱は色濃く陽を吸ひぬ

輪を描く鳶早春の空にあり

早春や鉢の苺の芽をもちて

水仙や黒く光れる大金庫

水仙にカード整理の女員かな

嗁く山羊を落花の土手に繫ぎけり

亂雜に鶴嘴置かれ花の下

辛夷咲くや巡禮憩ふ御堂裏

涅槃會のすぎたる寺や椿咲く

瀧不動崖に櫻の咲きにけり

先輩森里が生前その句藻を傾けた『しらうを句抄』の數句と一瓣の香を靈前に獻じ恭く弔す(秋雨蕭條たる十月三十日朝)

雜詠

伊藤平二

○使ふ身と使はるゝ身のへだゝりを思へばすべなみ默し居るなり

○人々に世渡り下手と言はれても邪を正としては生きがたき我れは

○小學の修身に敎はりしことをそのまゝに守らんとする愚なる我れは

○師の爲をひとすぢに思ふこの心容れられぬ日は淋しみ默す

○日ごよみの殘り少なみ何かもあせりどなりて落ちつかぬなり

日本精神の一考察(一)

平田生

一、はしがき

滿洲事變後日本人民の民族的自覺から日本精神の再認識となり、幾多の學者が日本精神とは何んぞやと究明、檢討するに至り雨後の筍の如く日本精神の學說は現れた、この日本精神は夫々の學者の立場からいろ／＼の學說が出て、お互に爲の錯雜を論じてゐる、佛敎を基礎としたもの、儒敎を持つて日本精神の根源としたもの、武士道を以つて日本精神としたもの、かみながらのみちとか、清明心とか混沌としてゐる。日本歷史を讀んでもその編者に依つていろ／＼變つてゐるのだから、是非、云々するには自分の立場をハツキリと決めて自己の日本精神なり、日本歷史なりを把握せねばならないと思ふ、私は佛敎學者が佛敎宣傳のために佛敎と日本精神と結びつけて佛敎が日本文化、日本精神の根源であるが如く論じてゐるのをみて、一寸癪にさわり氣の立場から日本精神に就いて考察してみる

二、奈良朝以前

吾が日本民族は地理的關係から――海國であり、山國である――尙武に富み、勇壯なる潑溂たる氣質の持主である、これは地勢と氣候から生活のためこうした民族が生れた、このことは日本神話はよく吾々に敎へてくれ、また吾々日本人の身体には血液となつて流れてゐる。歷史に依ると應仁帝の時代には朝鮮に十數萬の大軍をもつて遠征したと云ふことだから驚く、私は初め單なる傳說、物語でないかと思つてゐた、その當時の日本がどうして、そんな大軍を朝鮮に送ることが出來るか?、その當時の航海術はどの程度まで發達してゐたか?、舟はどんなのか、そして食糧はどうして送つたのかなど〻考へてゐた、それは誤りであつた

十五夜

小川可津美

こよいは十五夜月が出る
まるい大きな月が出る
お城山から鐘が鳴る
ひろい空から月が出た
まだ城山で鐘の音
青い空から月が出た
小供等々で歌うたふ
十五夜様の月が出た

卽事

珠雲　小野務平

毀死飛茅撼樹林
匪崩屋潰聽呻吟
颱風一過寂無響
寫里天晴秋色深

10月31日 △マルチン・ルーテル宗敎改革を宣言す(一、五一七)△賀茂眞淵歿す(明和六)△高野長英夢物語を著す(天保九)△日獨役靑島總攻擊開始さる(大正三)

株ハ一株ヨリ、債券ハ一枚カラ賣買致シマス。
△友部株式店
平町三丁目 電話一七七番

小說 高橋是清

(156) 松浦泉三郎作 佐々木今朝吉畫

募債戰(五)

『日本軍鴨綠江に露軍を擊破!』

この報は、日本公使の豫想外な人氣を呼んだ。倫敦市民の不安は全く一掃されたそして當日は來た。五月十一日!

是淸は早朝起床すると、朝食を濟ます間ももどかしく、支度もそこ／＼に、深井を促し、自動車を馳つてホテルを出た。自動車は朝の街を輕快に滑つた

バース銀行倫敦支店へ

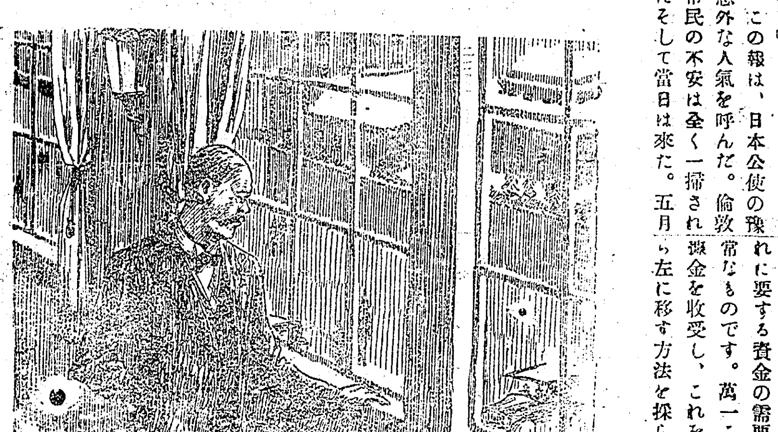
『深井、おゝ、あれを見ろ!』

是淸は窓外を指差して欣然と言つた。今門扉の左右に開かれたばかりの正面玄關から、應募者の群が、波のやうに流れこんでゐた

そしてその群集の波は、長蛇のやうに四五丁程も續いてゐた

『萬歲です!』

深井も膝を打つて叫んだ



二人は裏口から內部に入つた

內部では不斷と比して、非常に多數の行員が、激務に忙殺されてゐた。市內及び各支店から、臨時に招集したらしく、その數は、六十餘名に及んでゐた

『欣快に堪へません』

總支配人ダンが、葉卷の紫煙の中から、微笑して言つた

『然しこの人數は?』

是淸が一禮して問ふと

『證據金の始末に手數がかゝるからです。申込數は數倍に昇り、その證據金高は莫大なものです從つて、これに要する資金の需要も非常なものです。萬一この證據金を收受し、これを右から左に移す方法を採らぬ時は、倫敦の金融市場は、資金の偏在に依つて、忽ち恐慌を起すに至るでせう。が當行では證據金を受けると即時英蘭銀行の當座預金に移します。且申込に對する證據金の融通は大抵仲買人の手でなされてゐるのですが、その仲買人へは、當行から英蘭銀行の小切手で融通してゐるのです、でこの間の事務を、圓滑迅速に運ぶ爲にどうしてもこの人數を必要とするのです』

とダンは答へた

『御苦心の程お察し出來ます』

是淸は、新らしい學問をしたやうに、大きく頷いて感謝の意を表した

二人は其處を辭して、再度自動車を、香上銀行へ急がせた

此處も豫想外の好況だつた更に今度は正金銀行へ、矢張り同樣の活況を呈してゐた、共に蜿蜒と連る應募者の列を、警官が出て、整理してゐた、二人は夫等の警官達の勞を、自動車を降りて、親しく犒ひたい程の喜びに充されてゐた

米國に於ける發行日も同樣の盛況であつた事が後日に至つて判つた

とまれかくて、第一回六分利付公債募集は大成功裡に、終り、倫敦市中各銀行共、當日午後三時には申込み受付を締切つた程の成功を收め得たのであつた

この次第が、電報に依つて世界に傳はると日本の正貨流出は忽ちにして止つた

日本政府は更に第二回軍費公債二億圓の募集方を是淸に命じて來た。是淸の努力は、これをも容易ならしめた。六分利付、期限七ヶ年として倫敦、紐育兩市で發行、矢張り期待通りの成績を收め得たのであつた

是淸は同年十二月倫敦を發つて紐育に渡り、翌卅八年一月十日に約一年振りで母國の土を踏んだ

埠頭は出發時と反し、出迎人で埋められてゐた。萬歲の聲が潮騷のやうに湧いてゐた

是淸は出迎人の中に圍まれて不覺にもハラハラと溢れる嬉し涙を止め兼ねてゐた

廣告

おでん 一平
電話二六三番
出前迅速

磐城名物 靈峰羊羹
小川郷驛前 平屋賣店

松村醫院
院長 松村鐵郎
平町南町 電一〇七

平やみげ
毎度有う難御座います 味覺の秋となりました
滋養豐富な ニコ／＼のもち飴をおすゝめ致します。
御進物用箱入(¥20 30 50 70 1.00)
御下命次第迅速に配達致します。
平町新川町 ニコ／＼飴本舖 電話四四九番

ほねつぎ
平町公園下
桑原柔道整骨院
電話六七四
神經痛 リウマチスニ オレンヂパスタ

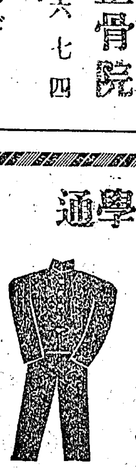
靈効散 胃腸藥 を御試し下さい
百果味美しく食慾のすゝむ秋となりました。今迄暑さのために弱つてる胃腸病の方が涼しくなると俄に澤山食過ぎてお腹を害したらスグキ、メの早い
胃腸病。心臟病。腦。痔。滴膿藥
三年、五年と患ふ慢性病胃腸病が全快した人が澤山あります。御望みの方には見本藥一日分を差上ますから御遠慮なく御來局下さい。
平町古鍛冶町縣社ノ下
處方箋調劑所 阿康藥局
電話四四番 振替口座東京三〇〇六〇番
定價 五十錢 八日分 壹圓 廿日分
御子様方には飲み易い小兒靈効散があります。

開院
皮膚科 泌尿器科 性病科 專門
診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ
平町田町舊山內醫院跡
江尻醫院 電話六九一
醫學博士 江尻伊三郎
院隨意入

開店オ知ラセ
味覺ノ秋 空澄ミテ人肥ルノ秋
おでん呑兵衛が生れました。ドーゾ可愛がつて頂きます。
おでん 呑兵衛
錦水跡(田町末廣通り)

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平町田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

通學用冬服賣出し
御待兼れの通學服が取揃ひました いづれも。型。生地。裁縫。共に入念なる製品です。

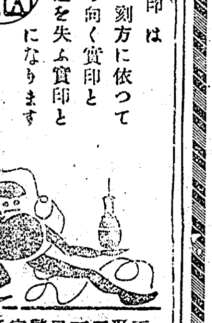


國防色號冬
6號	4.10ヨリ
	各寸20錢上り

黑小倉服
6號	3.50ヨリ
	各寸20錢上り

ふかや洋服店 平三 電203

實印は刻方に依つて運の向く實印と運を失ふ實印となります
易者



平町三丁目警察通り
一司堂印舖

銘仙の宣傳
景品付大賣出し
十月廿九日より十一月四日迄
足利、八王子、伊勢崎、秩父
一反毎に新製風呂敷一枚
一、今秋の新製品珍柄大量に取揃へました
一、御召物は銘仙がお德用日常の花形
一、夜具地と丹前は殊に高尙な新製品各種
一、原料は日々昂騰して參りました、幸に格安値品豐富に仕入ました
一、是非〳〵御來店の上御批評御買上の程お願申上ます
平三丁目
三井呉服店
電話 三十八番 二百八十四番

第四回 郡下模型飛行機競技大會
榮冠は何人へ―!!
期日 來る十一月三日午前八時ヨリ(雨天强風中止)
場所 平第三小學校々庭
一等―優勝旗、銀カップ 以下七等迄進呈
何人でも參加出來ます。多數御參加願ひます。
模型飛行機材料なら なんでも『いづみや』へ
主催 いづみや玩具店
後援 常磐毎日新聞社

町議、女將を筆頭に 關係者實に三十五名
身柄愈よ送檢さる

移動賭博

平署のダニ狩りに引つかゝつた小名濱町を中心とする移動賭博事件は遠く茨城縣方面まで延びてゐた關係から捜査に苦心しつゝ引續き同署司法部總動員でその全貌を洗つてゐたが、愈よ取調べの完了を見たので昨二十九日一と先づ一件書類を送檢、一味左記三十五名のうち二十二名を今三十日、殘る十三名は明卅一日送檢する事となつた、同署のダニ狩り殘黨組はこれで殆ど片づいたわけである

八十老婆も交る
博徒一味の顔觸れ

△小名濱町中坪小野弘(三三)横町漁夫鈴木章雄(三二)同町中田某(三〇)石井某(二五)上町飲食店小松千馬騎(四七)同町料理業河野道太郎(四二)橋本料理業山藤クニ(四六)竹町古物商馬上ハル(五二)舟引場魚行商須永カネ(七八)中坪無職立花クラ(七〇)竹町同若松ハル(八〇)新川北町議村上淨代二(五二)上明神町荷馬車業佐川廣(四五)舟引場牛馬商渡邊竹三(五五)上町飲食店鈴木武八(五六)古港漁夫小野武一郎(四三)同町無職加藤リヱ(三五)中坪魚行商鈴木ヨテ(四〇)中島料理業酒林ナカ(五〇)無職藤川登(三〇)古港魚行商野崎忠治(三五)中坪小野一(三六)竹町松原松吉(六〇)横町農坂本秋穗(四六)竹町小松春吉事笹原春吉(五五)同田邊末松(五九)上横町龍屋藤祉重雄(三三)
△四倉町本町料理業伊藤駒次郎(三一)
△湯本町向田越智新一(四二)
△勿來町小松己之吉(五五)
△茨城縣多賀郡川尻町根本秀吉(五〇)同町根本某(五〇)小泉某(三五)
△江名町土工小林元一郎(三九)豆腐業勝平善次(二九)

地元の顔役が牛耳り
一と賭場十名位で開張

その全貌を洗はれた前記移動賭博は小名濱町議村上淨代二氏を筆頭に料理屋の女將等女八名が加はり延五十三名と云ふ地方空前の大賭博團である
連中は漁船の着く毎に小名濱町醤油業稲屋事江尻タケ、若松惣吉、伊藤駒次郎等が賭場を牛耳り一組十名位で六百ケン、十丹等の現金賭博を開張してゐたもの、その一人が漸次賭場をかへて何十回となく行つてゐた處に取調べの苦心がひそんでゐたと云ふ

バクチが妙薬?

賭博餘聞一つ——齊藤司法主任の取調べを受けてゐた常習男の小名濱町竹町田邊末松(五九)——ワシはどうも花札をつかむと少し位の腹痛はすぐ治るんで……ついソノ——とやらかしたのですぐさまそれを調書にとると末松爺吃驚して『何はなんでもそれ迄は……』と突然の悲鳴に齊藤主任もニガ笑ひ

軍旗を迎へて 四倉町民感激
全濱國防色に溢る

赫々たる第二十九聯隊旗を迎へた昨二十九日の四倉町は早朝より各戸に國旗を揭げ在郷軍人分會員及消防組幹部總出動の下に諸般の準備をなし待機する中午後一時先づ野砲兵一中隊列車より下車大浦村の宿舍に向ふ此時より軍旗奉迎の民衆は刻々增加し町頭より本町を埋め盡し四倉署員、消防組は群衆整理に汗だくになつた、町頭には新妻町長、軍人分會、軍友會、町會議員町有志、消防組幹部、國防婦人會、小學校生徒、男、女青年學校生徒、其他塔列して時刻を待つた、午後六時に喇叭の音も勇しく夕暗を蹴る步調も高く武勳に輝く軍旗を先頭に若松第二十九聯隊の將兵及戰車、步兵砲兵の混成支隊を迎へ群衆は只感激あるのみ、かくて各隊は聯隊本部前に整列訓辭をうけ宿舍についた

『火保料率は引下げぬ』
平町で善後策協議

平町永年の懸案たる火災保險料率引下げ運動は既報の如く現在の料率一一を九乃至八程度になすべく再三陳情團が出仙奔走したが實現を見ぬのみか最近に至つて『全然引下げは行はぬ』との極めて悲觀的な情報が入つたので町では來月二日在平代理店を招き善後策を協議する事となつた

モダン味豐かに 出來た橋と講堂
上遠野と植田を飾る

上遠野村下根岸橋の竣工式は一昨廿八日午前九時より同村協贊會により來賓平土木監督所長代理、久和植田署長、地方有志關係者を招待擧行したが、式後植田美妓連の手踊其他の餘興あり好天氣に惠まれ非常な盛會であつた
同橋は總豫算一萬四千圓で去る六月着工、鐵筋コンクリートのモダン味豐なもので同村に一美觀を添へたものである
尙は植田町小學校講堂は去月上棟式を擧行以來着々進工中で既に外廓を落成し殘す內部造作も多分來月中旬頃竣功するらしく十二月初旬地元協讃の下に華々しく落成式擧行の筈である

問題は寧ろ簡易に 大体從來の方針踏襲
來春の入學考試に就て 小檜山磐中校長談

二學期も漸く半ばに入り、男、女中等學校の受驗準備に關する兒童本人、受持敎員、各家庭三位一体の關心は愈々深刻を加へ來つた今日、お互差し當り知り度いのは來春の志願者數と學校當局の詮衡方針で、前者はさらでだに逐年漸增の傾向なるに加へ來春は少からぬ子弟を擁する錦村昭和人絹會社關係で相當の增加を見るべきは殆ど既定の事實を見ねばならず、賴みとするは學校の緩和方針一つと云ふ譯であるが、右に就き過般東京帝大安田大講堂に開かれた全國中學校長會議に出席歸校した小檜山磐中校長は『問題は寧ろ簡易に大体は從來の方針踏襲』と前提して次の如く語る

——全國から五百七十九名の多數校長が集つた丈けに大都會地と地方と其間自ら問題に對する視角を異にして居る爲め イ、抽籤 ロ、小學校敎育を亂さぬ爲の問題簡易化 ハ、『小學修學程度』の漠然たる範圍を尋常五年、或は六年の敎科書よりと限定 ニ、校長內申其他種々な意見が出たが、大都會關係の主張に係る抽籤は往々其の素質を有たぬものが入ると反對に優良生が之に洩れる場合があり、また校長の內申にのみ重點を置く方法は兒童の就學早々暗々裡の競爭が行はれ之に伴ふ師弟間の情實も關心外に置く事が出來ぬと云ふ樣な事情もあり、現在既に文部省の訓令により口問口答(必要に應じ筆問筆答)素質(校長內申)健康等を參酌考量し地方の實情に即した方法によつて大して不都合も感せぬ以上、今日更めて畫一的の訓令を發せらるるが如きは却つて實際の運用上時宜に適せぬ事になる恐れがあるので此點愼重なる考慮に出て欲しいと云ふ希望が大多數で結局當校としても成るべく全科に亘り從來より一層簡易な問題を課し小學校時代の敎育を重視し、受驗準備に骨を折らせぬ方針で進む考である。云々

沼田村長再選

內郷村では昨二十九日村長選擧の村會を招集、滿場一致現村長沼田濱之助氏が再選された

○○○○高野縣道竣功 箕輪村高野地內縣道五百米の改修工事は工費三千圓で竣功した

炭礦=人絹=漁場 「働く者はないか!」
紹介所斡旋に大童

農繁期は既報の如く濱からも土木工事場からも『人手』を奪つてしまつたのでどこもこゝも悲鳴を擧げてゐる毎日のやうに飛び込む各方面からの求人申込みに平職業紹介所でもホト／＼弱り拔いた揚句各方面の紹介所並に連絡町村に對して『至急斡旋』の悲電?を放つて四家所長以下その狩り出しに忙しい

炭礦 磐城炭礦から昨二十九日採炭夫五百名の大量申込み、資格は三十五才以下、最低初日給一圓

人絹 復興の設備成つた錦村昭和人絹工場で男工八百名、女工五百名、希望者は詳細同所に問ひ合せの事

漁場 いはし漁の本格的漁季に入つて片濱何れも非常な手不足、昨二十九日小名濱町役場から雜夫百名、同町太田豊太郎氏から十餘名の斡旋申込み

機關車運轉競技
平機關區の選手決る

平、大子、水戸三機關區對抗の機關車運轉競技は昨報の如く來月中旬一週間に亘つて行はれるが、平機關區では選手を左の如く決定、目下猛練習中である(括弧內助手)

松本正(阿部三平)市內繁(大關利吉)中澤喜市(石井稔丸)新妻庄平(齋藤進勇)大和田淸吉(矢吹竹司)箱崎榮三郎(鈴木卓彌)大山庄松(齋藤喜三郎)鵜沼酉義(藏島一郎)鈴木利平(佐藤喜一)和田喜重(遠藤五郎)坂本德(岡部七五三吉)鎌田喜右エ門(志賀金平)

入營附添町村決定

今年度入營兵の附添町村長は今三十日の抽籤で左の如く決定

仙台—湯本、若松—高久
東京—泉、千葉—川前、
橫須賀—大野、滿鮮—玉川

秋刀魚が安いぞ
連日の豐漁續きに ガタ落ち一尾一錢

『待つてました秋刀魚群…』とばかり本郡沖合はいま連日の豐漁續きで小名濱江名各濱は活氣づき平の問屋もお蔭でイキのよい秋刀魚の氾濫に相場は急落一昨日迄一尾二錢三厘がきのふは何と一尾一錢と云ふベラボウな値段向ふ鉢卷きの魚屋さんは『ツブの小さいのでマア一錢七厘、いまが秋刀魚の食ひごろですぜ』と景氣をつけてゐる

天氣豫報 (小名濱測候所觀測)

今晩は北の風曇後晴
明日は北西の風晴

依然平署が最多
縣下四署の送致件數

縣下四署(平、若松、郡山、福島)の今年一月以降九月末迄の送致件數左の如く依然平署が筆頭であるが、同署昨年同月迄に比し百八十一件の減

平五九六件 若松五〇四件 郡山三八三件 福島三三九件

町村長總會
けふマルトモで

石城町村長會は今三十日午後一時から會場を變更してマルトモホールに開き入營者附添町村抽セン並に雜件を附議した

磐城高女寄附金本年度分三千百圓中未納金九百五十八圓七十九錢は來月十五日迄納付する事となつた

給仕一名募集

一、年齡十五、六歲、小學卒業程度の男子にして身体强壯、自轉車に乘り得るもの
希望者履歷書送付あれ、面談日通知す
本社

ダニ連罪の清算

傷害の廣川懲役三ヶ月

最初に起訴されたダニ好間村北好間字三反田炭鑛車夫廣川治平(三二)の傷害は今三十日平區裁野木判事係りの公判で求刑通り懲役三月を言渡された

女將征伐に半年
桃色事件を物にした 佐藤誠求刑さる

二番目に起訴されたダニ平町材木町居住神谷村中神谷字石脇生れ旬刊東北新報發行人陽倖事佐藤誠(四九)の恐喝公判は今三十日平區香西判事係り開廷、石合檢事は全く改悛してゐるが一部惡德記者のため新聞記者全般が被る惡名の責めを負はねばならぬとて懲役六月を求刑、判決は明三十一日

博徒亂闘巨魁に二年半

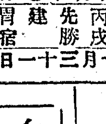
植田の博徒亂闘事件の首魁同町本町料理業惠比須家事石川郡山橋村生れ前科二犯高原新助(四〇)は今三十日平支部中島裁判長係りの公判で求刑七年に對し懲役二年六月を言渡された

府叱誤

小檜山磐中校長『ここはハイ・スクールなので五月蠅くて困つた』と頻りに歎聲を洩らす。中學校にHIGHとは變だときくと皆迄云はせず『蠅の奴が一ぱい居て幾ら征伐しても之の通りだよ』と云ひ乍ら棕梠の蠅叩きでピシャリ。恁麼通風採光どこから觀ても衛生上理想的の條件を備へて居るのに……と不思議がると『生徒が背負つて來る一匹二匹が斯う殖えて了つたんだ』そうな

三十一日 (小名濱測候所發表)

日出 五、五七	月出後 五、一八	
日沒 四、四四	月沒前 六、五二	
滿潮 前四、二五 後三、一〇	干潮 前一〇、一〇 後一〇、四五	



舊九月十七日 土曜 丙戌 先勝 建 胃宿 新十月三十一日

諸判定廳報 東京市本鄉區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 物事意の如くならず思惑外れ勝の日增資凶▲二黑 野心を起さず遲々たりとも本業を守るべし▲三碧 一こくでは世の中は通れぬ日穩順なるが吉し▲四綠 どん底は過ぎたれども尚ほ隱忍するのが安全▲五黃 營業以外の事には手を出さず靜を守るべし▲六白 多少障害あれどもたゆまざれば思ふ所に近く▲七赤 口舌さへ愼めば何事も滯りなく上首尾の日▲八白 氣を快活に家內一致して働くべし飲食注意▲九紫 地の利人の和を得たる日相談事亦調ふ

廣告

高久病院 院長 高久忠 平町田町 電五一三

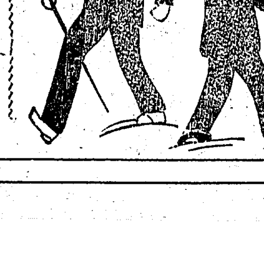
平町南町 大和田醫院 電話一七〇番

前田醫院

御待ち兼ねの杵の『おでん』と『なべ』
おでん 味は江戸前 種は江戸から 時は秋…味覺の秋!!!
なべ 味は江戸前 種は本場 はまなべ…ねぎまなべ よせなべ…しやこなべ ―(貳拾五錢均一)―
例年の通り始めました。遠近に不拘御屆け致します。御愛顧の程を……
評判と實際の店 ◉出前迅速
江戸前 ● 杵壽司 電六、七九

品質第一 電話二六八番
平牛乳舍 平町・九品寺前

實家ハ靜岡産地ノ茶問屋
生産家カラ直接需用家ヘ
香味自慢 生一本小笠銘茶
安價提供出來ル皆樣ノ店
買テ喜ビ賣テ喜ブ理想ノ店
卸小賣 大角園 平町 揺槌小路

イヤ『君いゝ服を求めたね…』
レイの『ソレ……正札堂さ…』
高級仕立 セビロ 17.50より 三ツ組 25.00
實用向 セビロ 10.00より 三ツ組 15.00
男女通學服賣出中
東京で一番のライオン印をお召し下さい。

正札堂洋服店 平停車場通 電四三六番

和洋 建具 家具 椅子 テーブル
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。

御各諸官衙學校用達 製作販賣
平町五丁目四
片寄製作店 片寄小彌太 電話四八四番